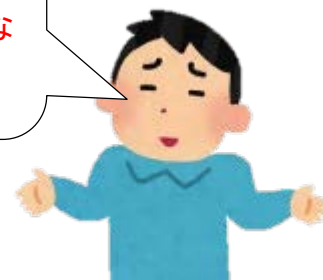
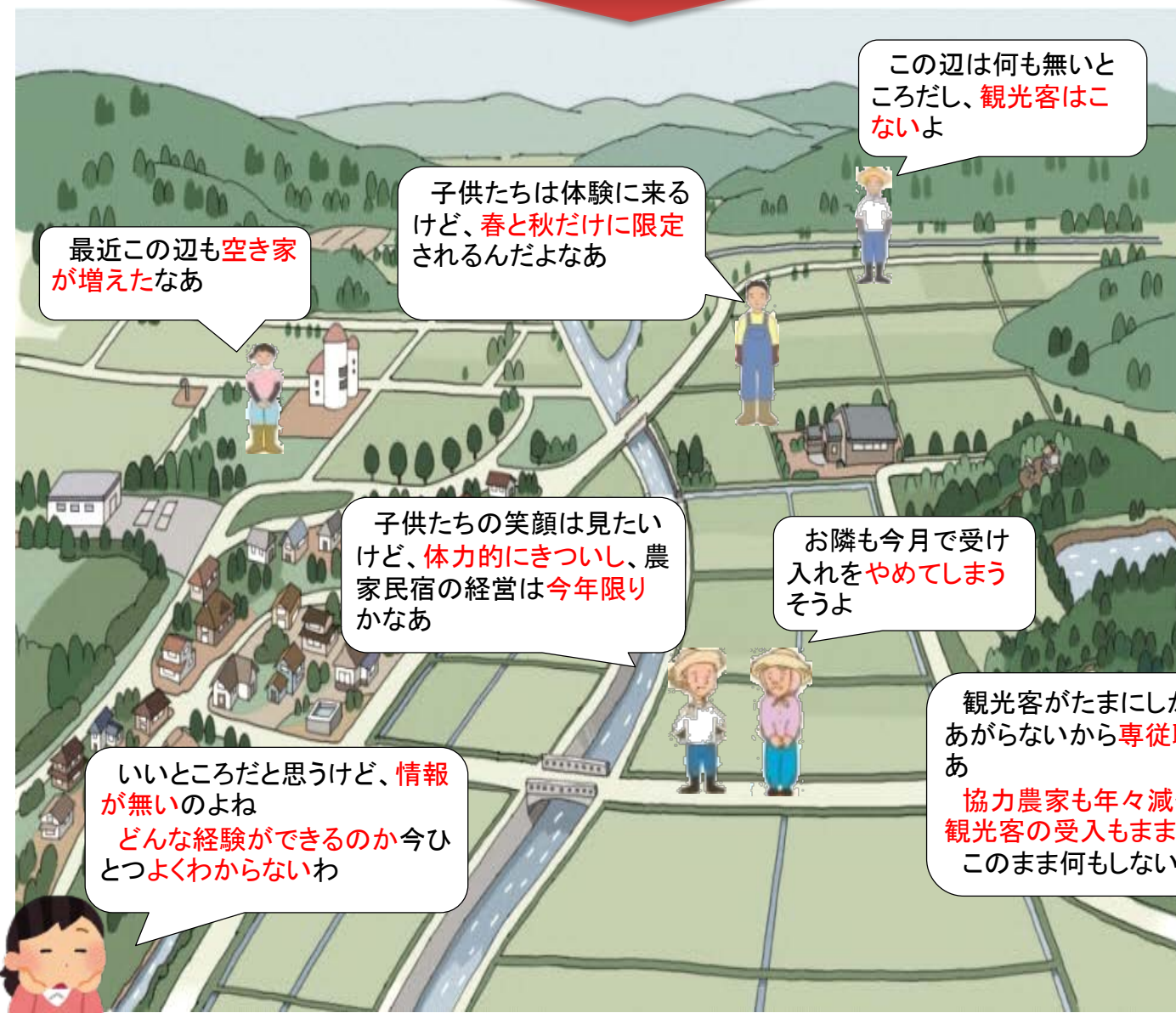




農泊の推進について

農村振興局
都市農村交流課

このままでは……



取組の結果

インバウンドの増加

田舎にいて**外国の人**と交流できるなんて、不思議だねえ

本物の日本が体験できるね！

古民家ステイがワンダフォーね！

地域の所得の向上

この村も人が増えて建物の建築・改修需要が増えたよ

農家所得の向上

先月は**30万円**も売上があったわ

遊休資源の利活用

最近**空き家**を宿泊施設にする人が増えたよ
以前と比べて**耕作放棄地**も随分減ったしねえ

移住者の増加

この前ウチに泊まりにきた若者が**移住**してきたよ
若者が地域のみんなを盛り上げてくれるから、ありがたいな

観光客の増加

最近、**元気な村**だと評判だから、行ってみようか

いろいろな体験ができる村みたいだね

法人を立ち上げて旅行業も登録。募集旅行もたくさん企画し、**収入も増えてきたよ**
そういえば最近**観光客**が増えたことで**移住希望者**も増えたなあ
業務量も増えてきたし、ウチもさらに一人**職員**を雇おうかな



観光客の目線に立ってニーズを把握

個人旅行

教育(団体)旅行

国内旅行者

インバウンド

富裕層

バックパッカー

アジア

欧米

etc

地元目線ではなく、観光客の目線が必要

観光客のニーズに応じて、ビジネスとして観光資源を磨くには、外部の目線が必要不可欠

裾野が広い農泊の取り組み



多様な関係者がプレーヤーとして参加することが望ましい

裾野が広い農泊を実施するには、地域が丸となって取り組むことが必要

どのように変えるのか

	従来は	今後は
地 域 の 目 標	「生きがいづくり」に重点	持続可能な産業へ
資 金	公費依存	自立的な運営
体 制	任意協議会（責任が不明確）	法人格を持った推進組織 （責任の明確化）
受 入 組 織 機 能	農家への宿泊の斡旋が中心	外部目線を活かしたマーケティングに基づく多様なプログラム開発・ 販売・プロモーション・営業活動

農山漁村振興交付金に「農泊推進対策」を新設

従来の対策	H29年度
都市農村交流に資するものを幅広く支援	農泊により所得向上を図る意欲のある地域を重点的に支援
市町村参画の地域協議会のみへの支援	農泊実施組織(ビークル)に対しても直接支援
ソフト・ハード対策をそれぞれの手続きで支援	ソフト・ハード対策を一体的に支援

① 農泊に対する「気付き」の喚起

農泊が農山漁村の所得の向上に繋がることの理解醸成

農泊ムーブメントを創出

② 「儲かる」体制の確立

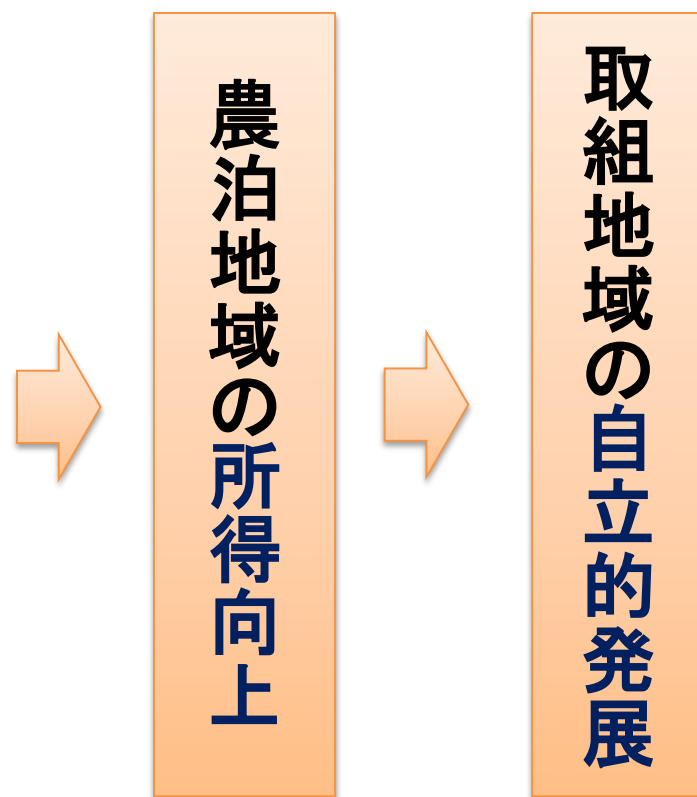
農泊ビジネスの現場実施体制の構築

③ 地域の「宝」の磨き上げ

地域資源を魅力ある観光コンテンツとして磨きあげ

④ 地域の取組を「知って」もらう機会の創出

優良地域の国内外へのプロモーション





★農泊シンポジウム等の開催★



北海道農泊フォーラム

参加費 無料 定額350名 (先着順) 2017.2.20(月) 13:30~17:30 (15:00開場)
札幌市教育文化会館 1階小ホール 札幌市中央区北1条西13丁目

基調講演

「新しい農泊の展開と
地方創生」

札幌市立大学 理事
金野 幸雄氏

パネルディスカッション

「地域の資源を活かした
農泊の推進について」

札幌市立大学 教授
鈴木 宏一郎氏

パネリスト

札幌市立大学 農学部 教授
高砂 耐史氏

札幌市立大学 農学部 教授
武田 耕次氏

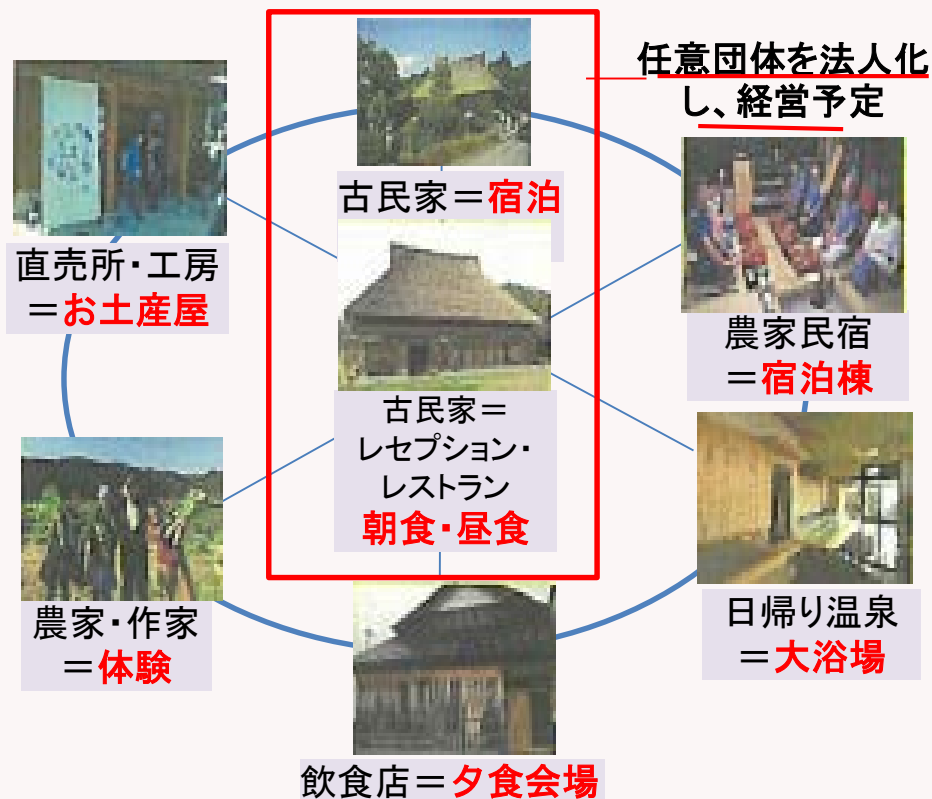
札幌市立大学 農学部 教授
上山 康博氏

札幌市立大学 農学部 教授
佐藤 遼水氏

主催：北海道、農林水産省 共催：国土交通省観光庁、内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局

里山まるごとホテル構想(石川県輪島市)

里山まるごとホテル構想の体制



古民家を改修したレセプションを中心に、
①客室：古民家の宿泊施設、②入浴：日帰り温泉施設、③食事：農家レストラン、④お土産屋：直売所 等として、里山をまるごとホテルに。

平泉・一関エリア農泊推進協議会 (岩手県平泉町・一関市)

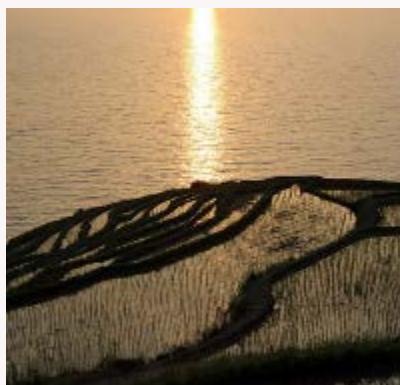


地域への動線の窓口である一ノ関駅前の拠点施設をレセプションとして、平泉、一関両エリアに観光客を導く体制を構築。

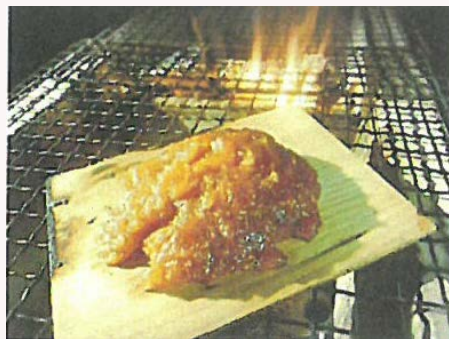
里山まるごとホテル構想(石川県輪島市)



茅葺きの古民家



世界農業遺産
白米千枚田



木っ端みその
伝統食(イメージ)



能登二行和紙の
紙漉き体験(イメージ)

平泉・一関エリア農泊推進協議会 (岩手県平泉町・一関市)



世界かんがい施設遺産
(一関市照井堰用水)



伝統工芸・秀衡塗



一関市のもち食文化

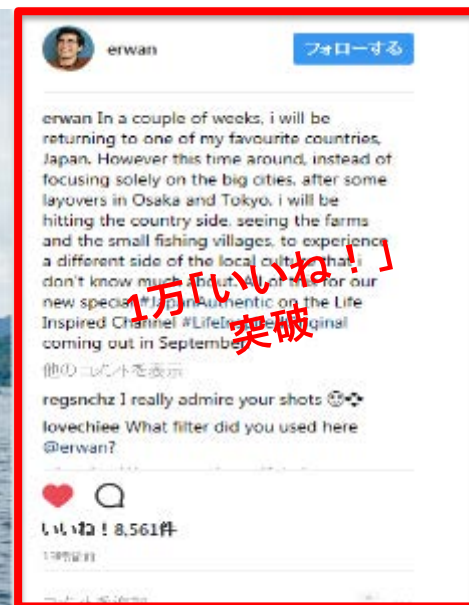


古民家宿泊施設の整備



海外の発信力のあるタレント等を起用したプロモーションビデオの製作・発信

アジアのタレント「エラワン・フサーフ氏」によるSNSを使った、PRビデオのロケ事前告知





海外エージェント、発信力のあるブロガー等を対象にモニターツアーを実施

海外エージェント



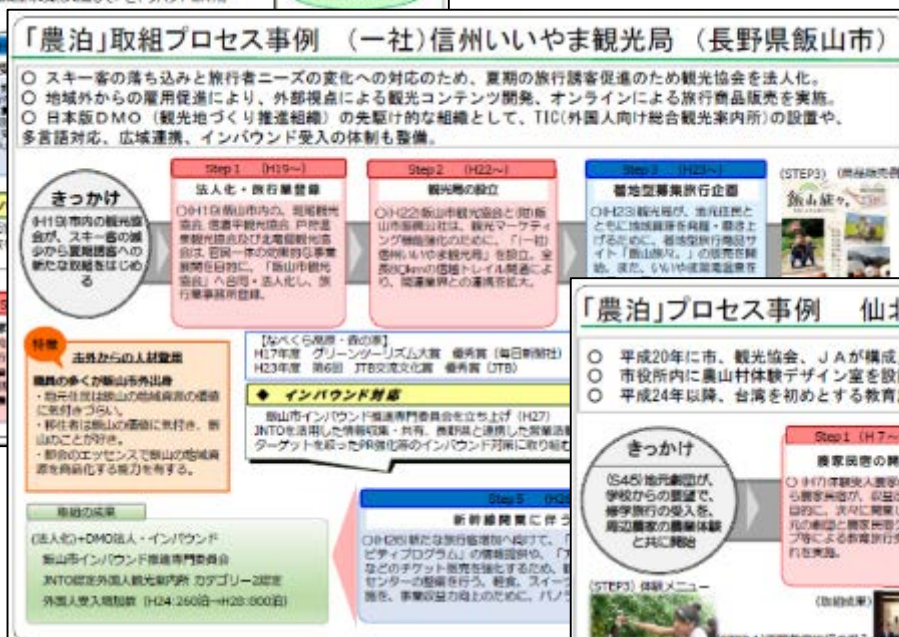
写真は2016年 日本政府観光局主催 VJTMファムトリップの様子

インフルエンサー



写真はイメージです

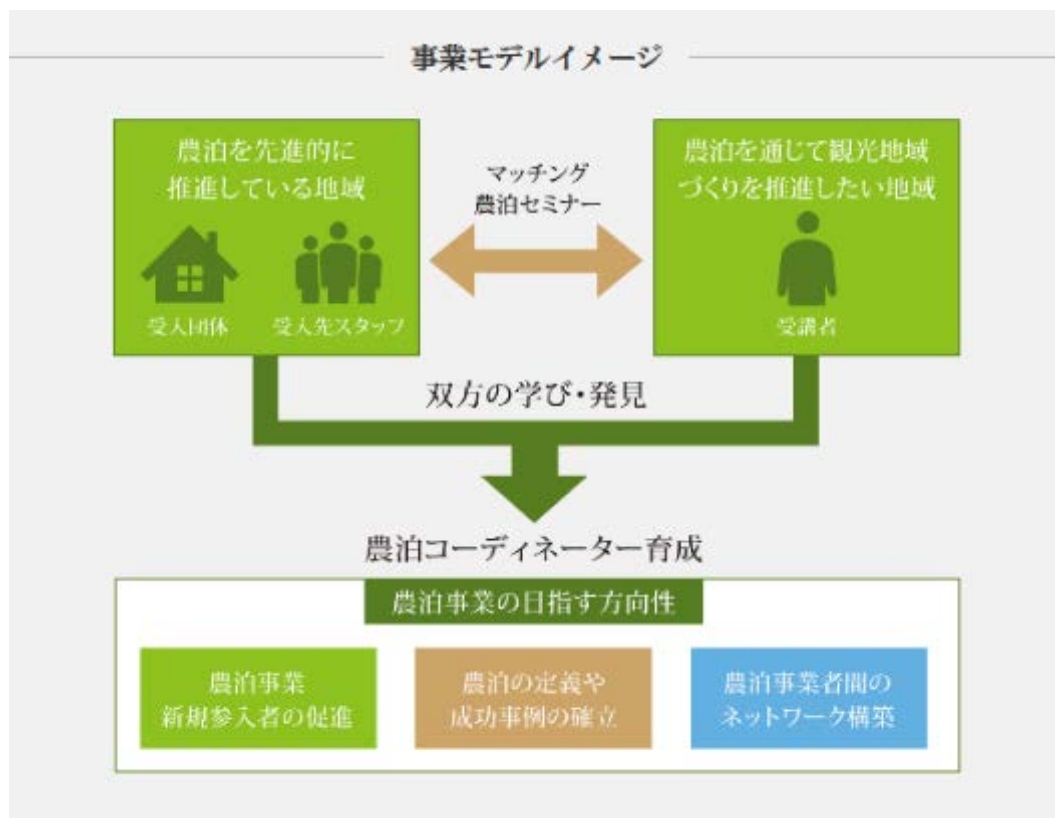
ステップアップガイド





『地域の取組を「知って」もらう機会の創出』の今後の取組

農泊セミナー・OJT研修



農山漁村への滞在型旅行「農泊」を今後推進していきたいと考えている団体や個人と、「農泊」の先進的な取り組みを行っている農泊セミナーの受入団体を募集します。

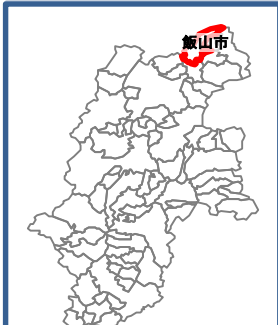


(事例①) ■ (一社)信州いいやま観光局による農泊の取組事例

〔長野県飯山市〕

- 平成22年に、(一社)信州いいやま観光局を設立。旅行業を取得し、農業体験、森林セラピーなど常時100件程度の着地型旅行を企画、販売するとともに、市より受託管理する体験交流施設などの観光施設を運営。
- 同観光局は、観光案内所のJNTOカテゴリー2認定(常時英語での対応可能)を始め、インバウンド受入体制を充実。受入実績は、H25年度263人、H26年度328人、H27年1,287人、H28年901人。

長野県飯山市



美しい里山風景



地域の食材豊富な郷土料理



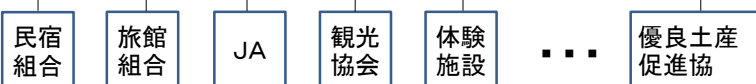
地元の人との交流体験

【体制】

信州いいやま観光局

- ・旅行の企画、販売
- ・観光案内所等の業務運営
- ・宿泊施設等の運営 等

(会員)



・ 信州いいやま観光協会は、農業や地場産業との連携による飯山らしい観光振興を図る目的で設立され、従業員数は平成29年現在98名。旅行会社、ホテル、金融機関出身者が活躍。

・ 会員は、130～140軒の民宿のほか、観光事業者、交通事業者、金融機関 等。

【特徴的な取組】

- ・ 50ほどの旅行プランをWebサイトで案内し、申込みから決済まで行うシステムを構築
- ・ 国内外のインバウンド商談会への出展
- ・ 女性の視点で、食の体験商品の開発



笹寿司づくり体験



Webサイト「飯山旅々。」



トレッキング
(信越トレイル)

【実績】

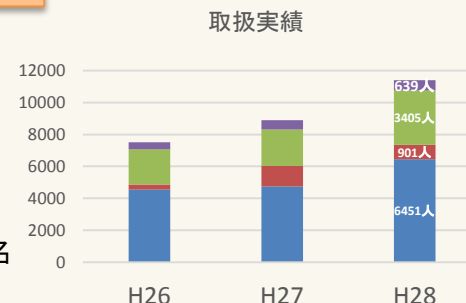
一般社団法人信州いいやま観光局 取扱実績

H28年度

○取扱人数※1： 11,396人
(うち、インバウンド 901人)

○延べ宿泊数： 9,767人・泊

○日帰り体験： 約1,000～1,500名



※1 「団体旅行」、「飯山旅々。申込者数」、「レストランかまくら村利用者」の合計

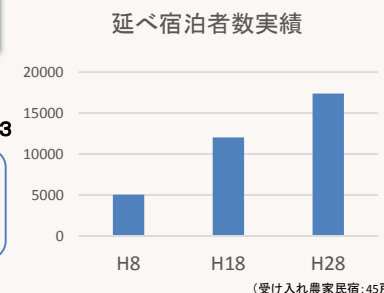
■ 団体旅行取扱人数 ■ 団体インバウンド人数
■ レストランかまくら村利用者数 ■ 飯山旅々。申込人数

戸狩観光協会※2 戸狩地区宿泊者推移／農家民宿 への波及

H28年度

自然体験延べ宿泊者数：17,380人・泊※3

- ・ 農家民宿一戸当たり平均386泊であり、農業所得に加え、宿泊による所得が付加
- ・ 戸狩観光協会HPによると、宿泊代は、6,000円～8,000円／人・泊



(受け入れ農家民宿：45戸)

※2 戸狩観光協会は、(一社)信州いいやま観光局の会員

※3 宿泊者数は、戸狩観光協会独自の取扱であり、(一社)信州いいやま観光局の取扱は含まない

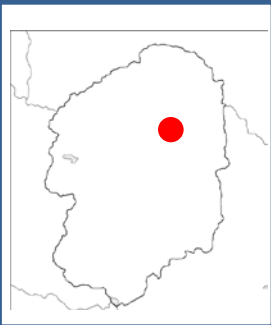
「都市農村交流に係る市場規模等調査」(H27年農林水産省)に基づく収支構造調査から推計すると、宿泊の所得率は5割程度

(事例②) ■ 大田原グリーン・ツーリズム推進協議会による農泊の取組

〔栃木県大田原市〕

- ビジネスモデル構築のため、平成24年に大田原市と地元企業18社からの出資により外部人材登用によるPPP(官民パートナーシップ)形式の株式会社を設立し、同年、大田原グリーン・ツーリズム推進協議会を立ち上げ。
- 更に個人・外国人等の受入に発展させるため、大田原ツーリズムを中心に、近隣市町村にも同様な協議会を設立し広域連携を図るとともに、古民家等の再生にも着手。

栃木県大田原市



ミヤコタナゴ(国指定天然記念物)

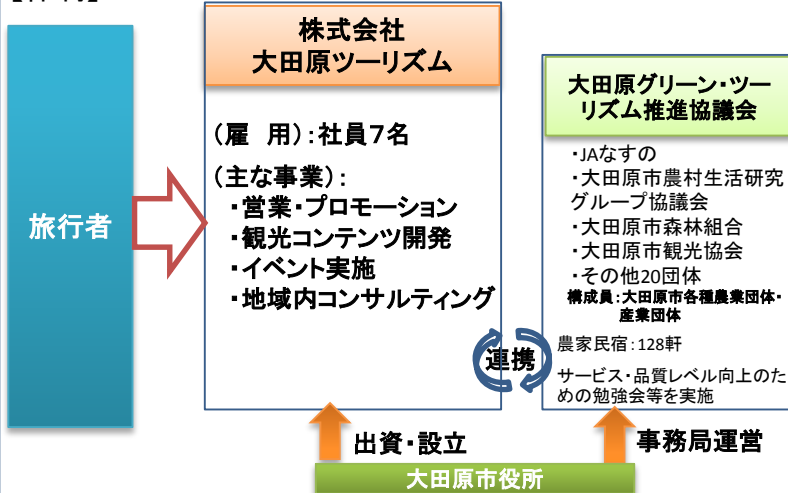


広大な牧草地



自然体験

【体制】



大田原市と地元企業18社からの出資により外部人材登用によるPPP(官民パートナーシップ)形式の株式会社を設立し、4年で黒字達成。

【特徴的な取組】

- ・ 120を超える体験プログラムを開発・販売。
- ・ 都市部企業向けに、廃校舎を利用した「大人の小学校生活体験」など、創意溢れる企画で新たなマーケットを開拓。

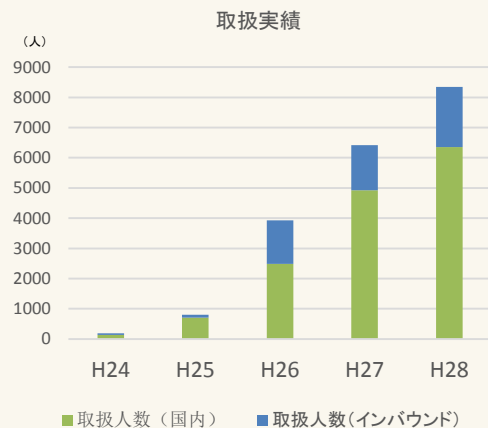


【実績】

株式会社大田原ツーリズム 取扱実績

H28年度

- 観光交流人口: 8,351人 (インバウンド: 1,995人)
- 宿泊数(農泊以外含): 4,678人・泊

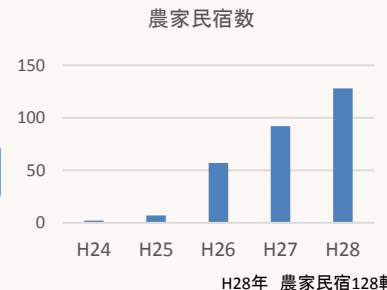


農家民宿への波及

H28年度

延べ宿泊数 約3,428人・泊
農家民宿軒数 128軒

- ・ 農家民宿一戸当たり平均27泊であり、農業所得に加え、宿泊による所得が付加



「都市農村交流に係る市場規模等調査」(H27年農林水産省)に基づく収支構造調査から推計すると、宿泊の所得率は5割程度

- 空き家古民家等の地域資源を活用した滞在施設を整備するため、集落住民によるNPO法人の設立、(一社)ノオトとのLLPの結成により、事業実施体制を構築。
- 宿泊事業をきっかけとした都市住民向けの田んぼオーナー制度による米づくりや、黒豆栽培等の交流事業の実施により、2.1haの耕作放棄地を完全解消し、Uターンも増加傾向。

兵庫県篠山市



のどかな農村風景



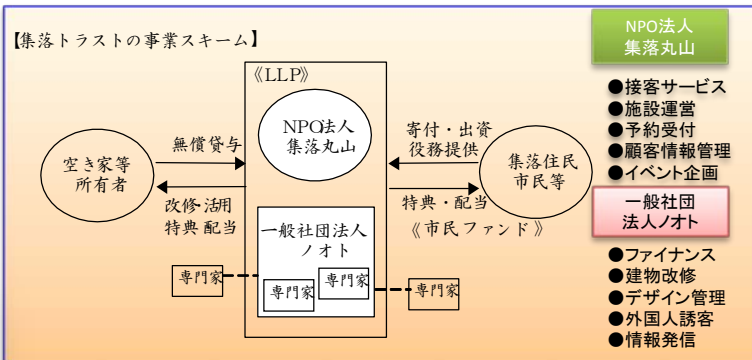
古民家の宿 外観



お茶摘み体験

【体制】

【集落トラストの事業スキーム】



- 集落住民により「NPO法人集落丸山」を設立。
- 一般社団法人ノオトとLLP(有限責任事業組合)を結成し、役割分担・責任体制の明確化を図る。

【特徴的な取組】

- ・古民家を改修した宿泊施設を一棟貸しで提供。
- ・集落内にある蕎麦処「ろあん松田」、フランス料理店「ひわの蔵」と連携し、オーベルジュスタイルの宿としてハイエンド層をターゲットに設定。



フランス料理 ひわの蔵



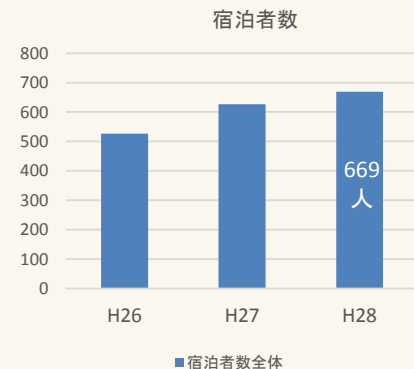
古民家の宿 寝室

【実績】

NPO法人集落丸山
宿泊者数実績

H28年度宿泊者数 : 669人

累積宿泊者数 : 5,500人超
(H21年～)



集落丸山の売上／集落への波及

H28年度売上

宿泊売上 : 9,915千円
その他 : 141千円(物販等)

LLPから集落住民への配当額 等

H28年度 2,411千円 (6世帯)

集落への効果

- Uターンの増加
 - ・H20 集落12世帯のうち定住は5世帯19人
 - ・H23 Uターン定住(5→6世帯23人)
 - ・H29 Iターン移住(6→8世帯28人)
- H27 耕作放棄地(2.1ha)解消

(事例④) ■ にし阿波～剣山・吉野川観光圏協議会の農泊の取組事例

〔徳島県三好市、美馬市、つるぎ町、東みよし町〕

- 平成19年度から、官民が一体となった「そのの郷山里物語協議会」を設立し教育旅行の受け入れ開始。翌年「にし阿波観光圏協議会」を設立し、観光圏認定。平成23年に設立の「一般社団法人そのの郷」は、H28年にDMO候補法人に登録。
- 「剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川の資源」の恵みを育んだ農業等の暮らし、歴史文化、伝説を基に独自ブランドの確立を目指す。

徳島県三好市、美馬市、
つるぎ町、東みよし町



急傾斜地での農耕 にし阿波全域

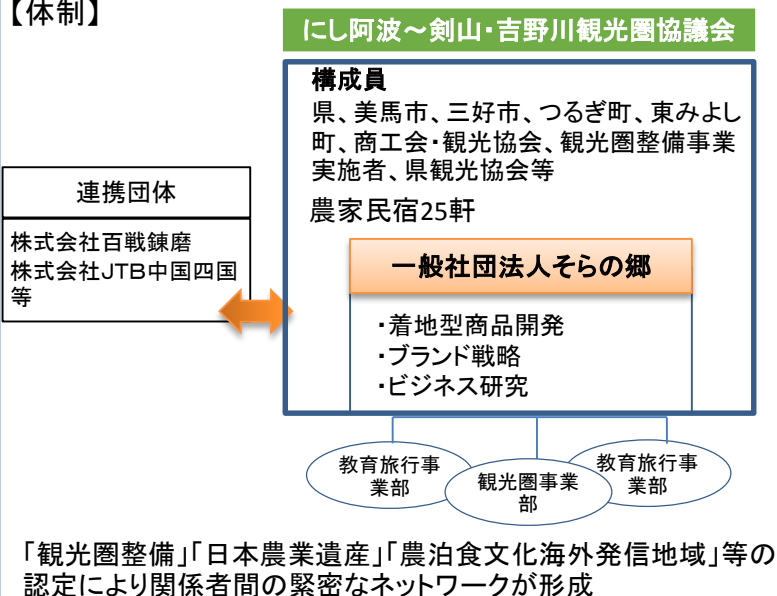


峡谷に息づく伝統と文化



急傾斜地の伝統農法

【体制】



【特徴的な取組】

- ・平成17年に国重要伝統的建物群保存地区の指定を受けた落合集落に点在する古民家を宿泊施設として再生
- ・桃源郷と言われる地域では、農家の暮らし体験のほか、全国的にも知られる吉野川のラフティング体験が可能



農家の暮らし体験



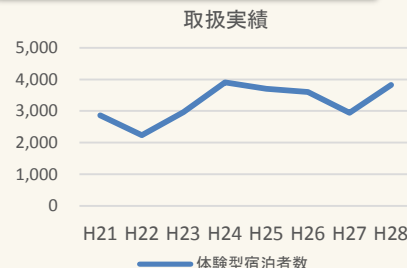
茅葺き民家ステイ



五右衛門風呂

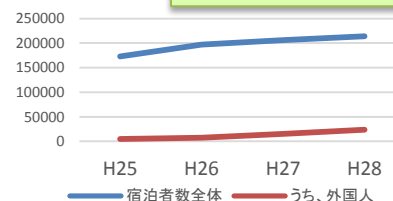
【実績】

一般社団法人そのの郷 取扱実績



H28年度
延べ宿泊数 : 3,827人・泊

にし阿波～剣山・吉野川観光圏 宿泊者数



H28年度
宿泊者数 : 214,000人
訪日外国人: 23,681人

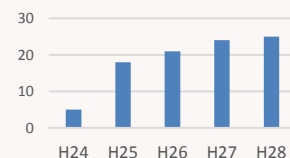
農家民宿への波及

平成28年

体験型教育旅行延べ宿泊数 3,827人・泊

- ・農家民宿一戸当たり平均153泊であり、農業所得に加え、宿泊による所得が付加
- ・美馬市ホームページによると、宿泊代は9,700円程度

農家民宿数



H28年 農家民宿25軒

「都市農村交流に係る市場規模等調査」(H27年農林水産省)に基づく収支構造調査から推計すると、宿泊の所得率は5割程度

- 農山漁村が持つ豊かな自然や「食」を活用した都市と農村との共生・対流等を推進する取組、農福連携を推進する取組、地域資源を活用した所得の向上や雇用の増大に向けた取組及び農山漁村における定住等を図るための取組等を総合的に支援し、農山漁村の活性化を推進。
- 平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に「滞在型農山漁村の確立・形成」が位置付けられたところであり、特に、訪日外国人旅行者を含めた農山漁村への旅行者の大幅増加による所得の向上や雇用の増大を図るため、日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ滞在である「農泊」を持続的な観光ビジネスとして推進する「農泊推進対策」を創設。

農泊推進対策（新規）

- 地域資源を活用した観光コンテンツを創出し、農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を持った「農泊地域」の創出を通じて、農山漁村の所得を増加していくため、ソフト・ハード対策を一体的に支援

農泊を推進するための体制構築、観光コンテンツの磨き上げ

- ・「農泊」を観光ビジネスとして自立的に活動できる体制の構築
- ・伝統料理等の「食」や美しい景観などの地域資源を観光コンテンツとして磨き上げる取組
- ・インバウンドに対応するためのWi-Fi環境の構築や多言語標示板の設置 等



農作物収穫体験



森林散策



地引き網漁体験

農泊を推進するために必要な施設整備

- ・古民家等を活用した滞在施設や農林漁業体験施設等の整備
- ・農山漁村への集客力等を高めるための農産物販売施設等の整備（※活性化計画に基づき実施）



古民家等の改修



農家レストランの整備

- 実施主体：市町村、地域協議会、地域再生推進法人等
- 実施期間：上限2年 等
- 交付率：定額（上限800万円等）、1／2 等

農山漁村活性化整備対策

- 市町村等が作成する活性化計画に基づき、農山漁村における定住や地域間交流の促進、所得の向上や雇用の増大を図るために必要な生産施設等、生活環境施設及び地域間交流拠点施設等の整備を支援

農林水産物処理加工・集出荷貯蔵施設、新規就農者等技術習得管理施設、防災安全施設、農山漁村定住促進施設、廃校・廃屋等改修交流施設、農林漁業・農山漁村体験施設、地域連携販売力強化施設 等

- 実施主体：都道府県、市町村、農林漁業者の組織する団体等
- 実施期間：上限5年
- 交付率：都道府県又は市町村へは定額（実施主体へは1／2等）



味噌加工施設



定住希望者の一時滞在施設



農産物直売施設



就業のために必要な研修施設

都市農村共生・対流及び地域活性化対策（拡充）

- 農山漁村が持つ豊かな自然や「食」を活用した地域の活動計画づくりや実践活動、意欲ある都市の若者等の地域外の人材を長期的に受け入れる取組を支援

- 福祉農園等の整備を支援する地域を農村地域まで拡充し、福祉と連携した農業活動等の取組を全国的に支援

- 実施主体：地域協議会（市町村が参画） 等
- 実施期間：

都市農村共生・対流対策	：上限2年
地域活性化対策	：上限5年
- 交付率：定額（上限800万円等）、1／2



活動計画づくり



高齢者のいきがい農園の整備



障害者による玉ねぎ収穫

山村活性化対策

- 特色ある豊かな地域資源を有する山村の所得の向上や雇用の増大に向け、薪炭・山菜等の山村の地域資源等の潜在力を再評価し活用する取組を支援

- 実施主体：市町村等
- 実施期間：上限3年
- 交付率：定額（上限1,000万円）



地域産品の加工・商品化

主な重点プロジェクト

子ども農山漁村交流プロジェクト

「農」と福祉の連携プロジェクト

農親連携プロジェクト

空き家・廃校活用交流プロジェクト